

研究・調査報告書

報告書番号	担当
265	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
<p>Prenatal alcohol exposure and language delay in 2-year-old children: the importance of dose and timing on risk.</p> <p>2歳児における出生前のアルコール暴露と言語発達遅滞について～リスクに関する量と時期の重要性について～</p>	
執筆者	
O'Leary C, Zubrick SR, Taylor CL, Dixon G, Bower C.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Pediatrics. 2009 Feb;123(2):e289-96.	
キーワード	
出生前アルコール摂取、胎児性アルコール・スペクトル障害、言語発達障害、小児発達、縦断的研究、長期的研究、RASCALS 研究	
<p>要 旨</p> <p>目的： 本調査は早期の言語習得と出生前のアルコール暴露の時期とその量との関連を明確にすることを目的として行われた。</p> <p>方法： 我々は無作為に言語発達遅滞者を抽出し、オーストラリア西部で 1995 年から 1996 年に生まれた子供とその母親で長期にわたる健康行動と 2 年にわたる調査の同意が得られた者 (1739 名) を対象として実施した。アルコール摂取の情報は出産後 3 ヶ月の時点で 4 つの期間 (妊娠期 3 期間と、出産後 3 ヶ月間) について収集された。出産前の飲酒量は、1 週間のトータルの飲酒量、機会飲酒や飲酒頻度の量で “飲まない” “少しの飲酒” “中等度から重度の飲酒” “過度 (5 杯以上) の飲酒” にグループ分けした。年齢と段階別の質問から得たコミュニケーション得点は言語発達遅滞を調べる際に使用された。ロジスティック回帰分析で交絡因子を調整し、オッズ比と 95% 信頼区間を得た。</p> <p>結果： 低いレベルでのアルコール摂取と言語発達遅滞にはどの期間に於ても関連は認められなかったが、第 3 期 (28 週から 40 週) における中等度から重度の飲酒レベルにおいては 30% リスクが増加するという結果は有意ではなかった。 妊娠第 2 期 (16 から 28 週) でアルコール摂取をした母親から生まれた子供はオッズ比で言語発達遅滞が 3 倍増加するという点に関しても優位な結果ではなかった。共変数で調整した結果、第 3 期 (28 週から 40 週) でも同様の結果であった。</p> <p>結論： 本研究では、妊娠中の低いレベルでのアルコール摂取と禁酒をした女性との間で言語発達障害について関連は認められなかった。妊娠末期において過度の飲酒をした母親から生まれた子供の言語発達遅滞が 3 倍になるという事も有意な結果ではなかった。しかし妊娠末期に過度の飲酒をしていた女性の数は少なく調査の限界があるため、今後この時期の過度の飲酒をしていた女性をより多く集めた研究が必要である。</p>	